

県中教研 技家(家庭)部会だより

第 36 号

発行日 令和3年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 市岡きぬえ
題 字 金山 泰仁 先生

今こそ 生活を見つめて

指導主事 高橋真理子

「お母さんのおかげ」1年男子生徒の発言です。少し幼い表現に聞こえるかもしれませんが、授業を参観していた私は、彼のその言葉と晴れやかな表情に惹き付けられました。

それは、日本の伝統的な食文化である「和食」が受け継がれてきた理由を考える授業でした。ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」について、伝統的な郷土料理や行事食、日常食等、それぞれの特徴を各自が調べ、地域や各家庭の願いが食材や調理方法に込められていることを知り、そこから「和食」の価値を互いに伝え合う場面でした。そんな中で、「和食」が受け継がれていることを自分との関わりで捉えた彼は、原点となる家庭を意識した瞬間だったと考えます。彼の食文化の継承がこの授業から始まったと言えるでしょう。

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業中、子供たちは、1日のほとんどを家庭で過ごすことになりました。これまで当たり前だと感じていた衣食住や消費生活等、家族の生活全般が大きく変化しました。

家族構成や家庭生活の状況は各家庭で異なりますが、これまでに経験のない生活の変化に合わせて、自分で昼食を作る、部屋の模様替えをする、家事を分担するなど、家庭分野の学習で蓄えた力を発揮する機会となりました。また、今までの「してもらおう自分」から、家族の一員として役割を担う「家族のために力になれる自分」への成長を自覚する機会でもあったと思います。

家庭分野は、「生活を見つめ、学んだことを生活に生かす力」を育むことを目指します。今こそ、自分を、家族を、そして共に過ごす人達を大切に思い、未来をたくましく切り拓いていく子供たちに成長して欲しいと願っています。

(東部教育事務所)

これからの「家庭科」教育に向けて ～教員生活を振り返って～

県部長 市岡きぬえ

緊張しながら県庁で受け取った辞令を持ち、初任先の富山市立南部中学校に向かった時のことを今でも覚えています。今までとは全く違った環境に身を置くことの不安や教員としてのスタートを切ることのできる喜びで胸がいっぱいでした。

私が初任のころは、技術・家庭科の授業時間数は今より多く、家庭科の教員数も充実していました。初任の学校では、家庭科の教員が2名配置されており、先輩の先生から日常的に助言をいただくことができ、大きな励みとなっていました。

現在、学級数や授業時間数の絡みで家庭科教員が減り、授業改善に向けて本研究会が貴重な時間となっています。

今年度の研究大会では、コロナ禍の中でも学習課題や学習内容を工夫し、生徒の興味・関心を刺激しながら授業を進めておられました。協議会では、多数の意見交換や指導主事先生からのご助言をいただき有意義な時間を過ごすことができました。

さて、令和3年度より新学習指導要領が全面実施となります。コロナ禍の影響でGIGAスクール構想への取組もスタートされます。先生方には今まで以上の研修が必要となり、各自の授業改善が必須となってきます。家庭科部員の方々には今後もお互いに切磋琢磨しながらよりよい部会となることでしょう。

最後に、3年間県部長として、家庭科部員の方々にお世話になりました。これからの中教研部会の発展を祈念しております。ありがとうございました。

(黒・明峰中)

第64回 研究大会報告

東 部 地 区 10月14日(富・東部中)

富山市立東部中学校において黒地忍教諭による研究授業「和食が受け継がれてきたのはなぜだろう」が行われた。生徒は「食材」「健康」「技」「伝統・文化」「もてなし」「季節・行事」の6つの視点から和食の特徴調べを行った。その際、調べた和食の特徴が可視化できるように思考ツール「フィッシュボーン」を用いてまとめ、発表を行った。

本時では、和食が受け継がれてきた理由について考え、発表することにより、和食のもつ良さが長年受け継がれてきた理由だと気付くことができ、授業後の感想でも考えに深まりが見られた。またICTを効果的に用いて、授業の進度が分かりやすくなるよう工夫されていた。



高橋真理子指導主事(東部教育事務所)からは、「新学習指導要領が目指す思考力の育成につながる授業であった。様々な角度から話を聞き、語り合うことで生徒の理解が深まる。その際、教師がどのように生徒に必要な力を確実に育てていくかが大事である」との助言をいただいた。

部会協議では、「生活や技術への関心・意欲・態度の評価の在り方」について実際の生徒の感想を元に意見交換を行った。大変参考になる協議であり、今後の自己の評価についてさらなる研修が必要だと実感した。

青木八千代(富・水橋中)

西 部 地 区 10月15日(南・福野中)

南砺市立福野中学校において中村智美教諭による研究授業「自立した消費者としての意識を高めよう」が行われた。「社会人Aさんのために最適な自転車を選ぼう」の学習課題の下、商品購入のシミュレーションを行った。提示した自作のチラシには、選択のための意思決定に必要な観点(価格、機能、安全性、アフターサービス等)の情報が精選して盛り込まれ、生徒は本物同様のチラシを前に、情報を整理しながら日常生活における買い物場面同様に商品を比較検討し、選択し、主体的に学ぶ姿につながっていた。一方、生徒のクレジットカードによる三者間契約等の知識の定着がまだまだ浅い様子が浮き彫りになり、生徒の実態に即した指導の工夫について助言をいただいた。

部会協議では「実感をともなった理解を深める実践的・体験的な工夫～消費生活の指導を通して～」と題し、高岡市立芳野中学校矢野優子教諭より、消費者被害への対応に関する授業案及び授業で活用する自作の動画の紹介があり、自立した消費者としての意識を高める上で大いに参考となった。また、新学習指導要領全面実施に伴い3観点での評価を行うにあたり、萩中弘恵指導主事(西部教育事務所)より3観点の評価の考え方、評価規準作成の仕方について、本題材の全体計画を基に教えていただき、来年度からの新学習指導要領全面実施に向けて理解を深めた。

小池 千恵(氷・西條中)

新入会員の紹介

富山市立三成中学校 中野 沙耶

本年度、念願の教員として採用され、家庭科部会の仲間に入ることができ、とても嬉しく思っています。コロナ禍で始まった学校生活は、思い描いていたものとは違い、少し戸惑いもありました。しかし、周りの先生方の支えもあり、何とかやってくることができました。授業では生徒が自分の生活や経験から課題を見付け、それを解決できる力を身に付けさせたいと考えています。これからも向上心を忘れず、研鑽を積んでいきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。